

# I 県の取組

## (1) 推進協議会の概要

### ◆ 推進協議会委員(敬称略・五十音順)

| No. | 氏名    | 所属等                         | No. | 氏名    | 所属等                        |
|-----|-------|-----------------------------|-----|-------|----------------------------|
| 1   | 伊藤 照男 | 滋賀県CSアドバイザー                 | 4   | 菱沼 由美 | 野洲市教育委員会事務局学務課 参事<br>社会教育士 |
| 2   | 上村 文子 | 滋賀県スクールソーシャルワーク<br>スーパーバイザー | 5   | 南 雄志  | 滋賀県立愛知高等学校・愛知高等養護<br>学校 校長 |
| 3   | 近藤 秀幸 | 甲賀市立柏木小学校 校長                | 6   | 吉田 尚子 | 竜王町立竜王西小学校<br>学校運営協議会委員    |

### ◆ 第1回推進協議会

#### 1 協議会概要

期 日:令和6年6月12日(火) 15:00~16:30

会 場:滋賀県庁 東館7階大会議室 (会場およびオンラインによる開催)

出席者:伊藤座長、近藤副座長、上村委員、南委員、菱沼委員、吉田委員

事務局:県生涯学習課(8名)、高校教育課 木部参事、幼小中教育課 一伊達参事(代理)、特別支援教育課 安井参事、  
子ども若者部子育て支援課 山田課長補佐(代理)

- (1) 開 会 県生涯学習課長 挨拶
- (2) 座長(伊藤委員)、副座長(近藤委員) 選出
- (3) 協 議
  - ①令和6年度「学校を核とした地域力強化プラン」について
  - ②「地域・学校・家庭の連携・協働体制構築の推進」について  
・「みつめなおして、よりよく」について



#### 2 協議要旨

(1) “みつめなおす”の余地はあるか。

- ・“みつめなおす”余地はある。コロナ渦があけて、地域ともう一度つながりなおすのか、解体するのか、地域は決めていけないといけない。行政だけの制度に依拠するのは限界がある。予算の切れ目が支援の切れ目であってはいけない。予算があるなしに関わらず、子どもの笑顔を見るために活動をしている。
- ・子どものためという観点からもみつめなおす余地がある。
- ・何が大事か引き継がれなくて形だけが引き継がれるということがある。そういう中で働き方改革が進められ、余計に形骸化していることは危惧するところ。

(2) どういうところをみればよいか。

- ・校長は変わるが、委員は変わらない。そのため、こういった課題があるというのを伝え、校長の思いを聞いて、こうしていこうという方向で活動をしている。
- ・職員がCSを語れないといけない。職員のミニ研修を進めていかなければならない。2年目なので委員の改選もあるが、できるだけ地域の方に残ってもらって、引き継いで継続していけるような活動にしていけないといけない。
- ・行政がやるメリットは、規則・マニュアルを整備してお伝えする機会を設けることができること、学校・地域が言いにくいことを教員・行政の立場から伝えることができるということ。

(3) “よりよく”のゴールイメージとは。

- ・子どもたちをどう育てたいかという方向で話をすすめると話ができる。子どものための取組になっているかというところを見ていく。それを行政、地域という観点から迫っていくことが必要。



## ◆第2回推進協議会

### 1 協議会概要

期 日:令和7年1月31日(金) 10:00~11:30

会 場:滋賀県庁新館 教育委員会室 (会場参加による開催)

出席者:伊藤座長、近藤副座長、上村委員、菱沼委員、吉田委員

事務局:県生涯学習課(8名)、高校教育課 木部参事、特別支援教育課 安井参事、幼小中教育課 白石主幹  
子ども若者部 山田課長補佐

(1) 開 会 伊藤座長 挨拶

(2) 報 告

令和6年度滋賀県各事業の取組について

① 成果と課題について

② 県実施事業について

③ 各市町における地域学校協働活動の取組状況について

④ 県立学校地域協働モデル事業について

⑤ コミュニティ・スクール導入状況およびCSアドバイザー会議・派遣について

⑥ 県および市町における家庭教育支援の状況について

(3) 協 議

今後の地域と学校の連携・協働体制の推進のあり方について

### 2 協議要旨

#### 【一体的な取組の重要性】

- ・小学校、中学校、高等学校でのコミュニティ・スクールや地域学校協働活動が連携し、子どもの成長を一貫して支援することが重要。
- ・湖南市では小中連携・地域連携を推進し、卒業生が支援される側から支援する側へと移行するシステムを構築されている。

#### 【中学校での課題と対策】

- ・中学校では地域とのつながりをイメージしにくい面があり、地域に出かけていく活動などを通じて連携を深める必要がある。
- ・各小学校の取組を中学校でも継続させることで、活動がうまく連携する可能性がある。

#### 【高校での取組】

- ・高校では「魅力ある高校づくり」の一環として、地域課題の探究や解決に取り組む活動が増加している。
- ・地域と一体となった活動が学校の魅力化につながる取組がトレンドとなっている。

#### 【情報発信と理解促進】

- ・活動内容を保護者や地域に効果的に発信することで、理解と参加を促進する必要がある。
- ・教職員への説明や理解促進が、コミュニティ・スクール導入のハードルとなっている面がある。

#### 【多様な連携の推進】

- ・福祉部局など他の行政部門との連携や、企業の地域貢献活動との協働が重要。
- ・外国籍の児童生徒や保護者との連携方法を検討する必要がある。

#### 【家庭教育支援との連携】

- ・家庭教育支援と地域学校協働活動の連携を強化し、子どもを中心に据えた取り組みを推進する。

#### 【課題解決型の取組】

- ・学校、地域、保護者が共通の課題を認識し、協働して解決に取り組むことが重要。

#### 【研修と情報共有の充実】

- ・教職員や関係者向けの研修を通じて、活動の意義や実践方法の理解を深める必要がある。
- ・成功事例や具体的な取組について、その内容を広く共有する仕組みづくりが重要。

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」で重点的に取り組む課題に応じた目標達成を図るためのアンケート

質問1 地域と学校の連携協働の取組によって「学校における働き方改革」につながりましたか。

(参考：R 5年度)

| 学校数 | 校種  | つながった | まあつながった | あまりつながっていない | つながっていない |
|-----|-----|-------|---------|-------------|----------|
| 143 | 小学校 | 55    | 62      | 24          | 2        |
| 45  | 中学校 | 12    | 14      | 13          | 6        |
| 188 | 全体  | 67    | 76      | 37          | 8        |

(校数)

| 校種  | つながった | まあつながった | あまりつながっていない | つながっていない |
|-----|-------|---------|-------------|----------|
| 小学校 | 38.5  | 43.4    | 16.8        | 1.4      |
| 中学校 | 26.7  | 31.1    | 28.9        | 13.3     |
| 全体  | 35.6  | 40.4    | 19.7        | 4.3      |

76.1 (%)

| 校種  | つながった | まあつながった | あまりつながっていない | つながっていない |
|-----|-------|---------|-------------|----------|
| 小学校 | 28.1  | 43.0    | 25.8        | 3.1      |
| 中学校 | 23.4  | 44.7    | 27.7        | 4.2      |
| 全体  | 26.9  | 43.4    | 26.3        | 3.4      |

70.3 (%)



質問1について  
 ○全体の強肯定は、昨年度より**8.7ポイント向上**した。  
 ○全体では、**76.0%が肯定的な回答**であったが、  
 小学校では、**81.9%**が肯定的な回答であったのに対し、  
 中学校では**57.8%**となり**24ポイント**以上の差があった。  
 ○前年度と比較すると、肯定的な回答は**5.71ポイント**  
**向上**した。

理由の記述について

Perplexityに「地域と学校の連携協働の取組によって『学校における働き方改革』につながりましたか。」の質問について、回答のあった以下の記述について、肯定的・否定的それぞれで、5つ程度のキーワードでまとめ、代表的な意見を示してください。また、少数意見でもこれとは違う意見については、別途、キーワードを示し、取り上げてください。と質問し、すべての理由を添付により、以下の回答を得た。

肯定的な意見

キーワード：負担軽減・環境整備支援・学習支援・連絡調整・専門知識提供

代表的な意見：

「地域の方とのつながりが必要な授業の際に、どの方かをお願いするとよいのか教えていただき、スムーズに連絡を取ることができた。」

否定的な意見：

キーワード：準備時間増加、調整業務増加、事務作業増加、負担増加、効果実感なし

代表的な意見：

「地域の方にお世話になって取り組む学習（家庭科のミシンや裁縫の支援、朝の読み聞かせなど）を行っているが、教員も今までと同じように児童に接しながら授業を進めているので、教員の働き方改革にかなりつながっているまでとは感じない。」

少数意見：

キーワード：教育の質向上、地域との距離縮小、子どもの変容

代表的な意見：

「学校と地域をつなぎ、体験活動を広く支えてもらっている。教育の質の向上になっている。」

質問2 地域と学校の連携協働の取組によって、子どもの主体的な学びにつながったり、子どもの学びが深まりましたか。

(参考：R 5年度)

| 学校数 | 校種  | そう思う | まあそう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-----|------|--------|---------|------|
| 143 | 小学校 | 71   | 62     | 10      | 0    |
| 45  | 中学校 | 13   | 20     | 7       | 5    |
| 188 | 全体  | 84   | 82     | 17      | 5    |

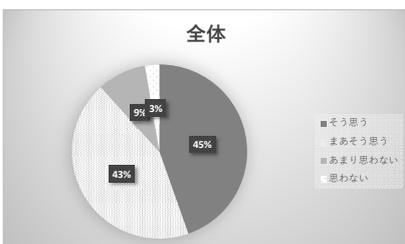
(校数)

| 校種  | そう思う | まあそう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|------|--------|---------|------|
| 小学校 | 49.7 | 43.4   | 7.0     | 0.0  |
| 中学校 | 28.9 | 44.4   | 15.6    | 11.1 |
| 全体  | 44.7 | 43.6   | 9.0     | 2.7  |

88.3 (%)

| 校種  | そう思う | まあそう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|------|--------|---------|------|
| 小学校 | 42.2 | 43.6   | 12.5    | 1.6  |
| 中学校 | 40.4 | 44.7   | 10.6    | 4.3  |
| 全体  | 41.7 | 44.0   | 12.0    | 2.3  |

85.7 (%)



質問2について  
 ○全体の強肯定は、昨年度より**3.0ポイント向上**した。  
 ○全体では、**88.3%が肯定的な回答**であったが、  
 小学校では、**93.1%**が肯定的な回答であったのに対し、  
 中学校では**73.3%**となり**19ポイント**以上の差があった。  
 ○前年度と比較すると、肯定的な回答は**2.59ポイント**  
**向上**した。

理由の記述について

Perplexityに「地域と学校の連携協働の取組によって、子どもの主体的な学びにつながったり、子どもの学びが深まりましたか。」の質問について、回答のあった以下の記述について、肯定的・否定的それぞれで、5つ程度のキーワードでまとめ、代表的な意見を示してください。また、少数意見でもこれとは違う意見については、別途、キーワードを示し、取り上げてください。と質問し、すべての理由を添付により、以下の回答を得た。

肯定的な意見のキーワード：地域人材の活用、体験的学習、専門知識の提供、意欲・関心の向上、地域への愛着形成

代表的な意見

「地域の専門家や経験者から直接話を聞いたり体験活動を行ったりすることで、児童生徒の興味関心が高まり、主体的な学びや深い理解につながった。」

否定的な意見のキーワード：教員の授業改善不足、人材・予算の不足、連携体制の未構築、効果の不確実性、受動的な児童生徒の姿勢

代表的な意見

「主体的な学びや深い学びの達成は本来教職員による授業改善の取組によって実現すべきで、まだそこまでは至っていない。」

少数意見のキーワード：カリキュラムマネジメントの重要性、教員の地域理解促進、相手意識の醸成

注目すべき少数意見

「地域の実態に基づいた学習が展開できたことで、教員も地域の方から学ぶ機会を持って、児童生徒の学びが深まった。」